

水 稲

冬こそジャンボタニシ対策を

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)が発生している地域では、冬季の防除対策の実施が2023年度の被害に大きく影響します。

ジャンボタニシは、地温が14℃を下回ると活動を停止し、水路や田で土に潜って越冬し、気温の上昇と春の田の水はりに伴って活動を開始します。繁殖力が強く、成貝では年間20～30回も産卵し、孵化後およそ2か月で繁殖が可能となると言われています。

このため、越冬する貝を減らすことは被害軽減に大きな効果が期待できます。

ジャンボタニシは寒さに弱く、九州でも5～10%しか越冬できないという報告があるものの、暖冬の年には静岡県で60～90%も越冬したこともあるようです。

今年は、かなり厳しい寒さが予想されていますので、ジャンボタニシ退治にはもってこいの冬となりそうです。

冬期のジャンボタニシ対策

田に水が無く、寒さの厳しい1～2月の間に、トラクターでロータリー耕を行います。

○越冬している貝を砕く

ロータリーの回転を速く、走行速度を遅くすることで、土に潜って冬眠して

いる貝を破砕して殺す効果が高まります。水稻苗に大きな食害をもたらす大型のものほど破砕しやすいため、大きな効果が期待できます。

○寒気にあてて退治する

厳寒期に10cm程度の深さでロータリー耕を行うと、土中で冬眠している貝を掘り起こし、寒気により殺貝する効果が期待できます。

比較的浅い所で越冬するので、深く耕すと燃費もかさむ上、土深くに貝を活けこむことになるので避けましょう。

○水路の越冬貝も忘れずに

水路等の泥上げを行い、泥に潜んでいる貝を寒風にさらして退治することも効果的です。

地域ぐるみで行うことが望ましいです。

○未発生田に持ち込まない

ジャンボタニシ発生田で使用したトラクター・ロータリーなどは十分洗浄して、未発生田に貝を持ち込まないように注意しましょう。

ジャンボタニシを増やさない

春になって貝が活動を始めると水路の壁面等にピンク色の卵を産み付けるようになります。ヘラ等で水の中に掻き落と

すと孵化しません。

しかし、産卵後日数がたち孵化が近づく
と、水の中でも生き残る確率が高くなり
ます。早めの対応を心掛けましょう。

卵のうちに退治することは、増殖を防
ぐ近道です。

病気を媒介することがあるので、貝も卵
も素手で触ることは避けてください。

野菜

やましろ野菜の生産進展状況

山城地域では多様な出荷野菜が生産され
ており、その種類は30種を超えます。JAや
行政で組織している山城地域特産物育成
協議会では野菜以外の品目を含めて表3の
品目を推進品目としています。

このうち京都府ブランド認証野菜は認証制
度に基づき生産・出荷されています。

九条ねぎは統一ネギ部会においてネギパッ
クセンターで包装出荷販売しています。

また、京都やましろ新鮮野菜のネギ出荷グ
ループは洗浄から袋詰め、箱出荷まで生産
者にさせていただいて販売しています。

冬季の水田を活用して栽培する花菜は、
首都圏への出荷を進めており、栽培者の人
数も増加している品目です。

オリジナルのスタンドパックを作成して出荷し
ており、他産地との差別化も進んでいます。

また、ブランド認証品目ではありませんが、
万願寺とうがらしは、採種から種苗の供給もJ
Aが行っており、山城産の万願寺とうがらし

生産推進野菜

京都府ブランド認証野菜

九条ねぎ 京みず菜 伏見とうがらし 花菜
聖護院大根 えびいも 京たけのこ

山城地域推進野菜(上記を含む)

こまつな ホウレンソウ 万願寺とうがらし 茄子
トマト きゅうり イチゴ シュンギク キャベツ
ブロッコリー 堀川ごぼう

果樹・花き推進品目

イチジク 柿 原木椎茸
コギク 湧水花き 花壇用苗物

の味や品質を好んで買い求める消費者も少
なくありません。 現在、JAでは9つの統一
部会が活動するとともに、支店単位での部
会や出荷組合が活動しています。
茄子部会は、選果場に持ち込めば、選別・
出荷までJAが行うため、栽培に専念できま
す。

2023 年度の農に向けて、新たな栽培品目
の検討を進めてみてはいかがでしょうか。

TAC 巡回現場より ～「パオパオ」で霜、病害対策～

これから強い寒気に覆われ、冬本番の寒さとなります。露地栽培では葉の異変や生育が抑制されるなど大切な作物が低温障害にあうことがあります。

その対策としてここでは被覆資材のパオパオを紹介したいと思います。

パオパオ（不織布）はごく薄いフェルト状の布です。布なのに光をよく通し、とても軽い被覆資材で、手軽に使えるのが利点です。

保温効果があり、通気性も高いので蒸れる心配もありません。また、害虫防除や鳥の食害防止にもつかえます。

背の高い作物に対しては、支柱を使用しトンネル被覆し、背の低い作物に対しては、軽さを活かして野菜の上に直接被覆することもできます。

良好な生育環境を保ち、作物の増収、品質向上、出荷時期調整を可能とする被覆資材のパオパオをおすすめします。